「地域へ貢献したい」

出番です！おじいちゃんおばあちゃん《256》

大村　豊雄さん（76歳・上区）

★…七十年前の三陸大津波で母親と兄弟をなくしていますん。★…そのためなんぼう苦労すたんだが…。★…若いころのごどを思い出せばめっつるがとまんなくて。★…ほんでもいまは、こうしておがだどともに毎日を楽すぐ暮らすごどができで本当に嬉ござんす。★…いわて洋上セミナーに参加したごども、おもすろぐ心に残っていますた。★…阪神淡路大震災の野島断層を見だとぎは、災害は忘れだころにやってくんだど改めで災害の恐ろしさを感じたり。★…年相応のボランティア活動が大事だごども学んだし、地域の人だずに健康長寿が心がら喜ばれるよう、貴重な体験を宝に村を応援したいが。

川柳（575）文芸の世界

川柳愛好会 十二月例会作品

めっきり少なくなった子等の
またひとつ齢い重ねて春迎え
あの人もこの人も皆忙しい　嵯峨　待女

来年を占うくじを引いてみる
迷いから覚めるとでかい声が出る
笑っても泣いても暮れる十二月　三上　翠香

来る年の幸に気付いて神に謝す
着膨れて道行く人の十二月
声かけた甥の遺影はほほえめり　深渡　汀女

ストーカーされているような十二月
番犬が吠えて騒音だと言われ
来る年が玉虫色に見える今　太長根英子

人並みの歩幅で刻む十二月
労わりの声で宥めた暴れ馬
来る年へ首が素直に回らない　加差野静浪

「普代の植物散歩」⑫

アカマツ（まつ科）

大森　竹之助さん（七一）　久慈市在住

アカマツはお正月の門松をはじめ、竹・梅とならんでなじみ深い木である。アカマツは常緑の高木性の樹木で、海岸にも野山にもごく普通に見られる。海の家「まついそ」のアカマツは幹の赤、葉の緑がきらめいて、紺碧の空と明るく青い海によく調和して、見事な風景をかもし出している。

卯酉山のアカマツからは植物名の由来の一つにあるように、神がその木に天降ることをマツにふさわしく、威厳と神々しさが伝わってくる。海岸の大小の島々に生えるアカマツは、自然のたけだけしさに耐えるため、大木にはなかなかなれないが、それだけに風景を際立たせ一幅の絵に勝る。

江戸時代に普代や黒崎・堀内などの漁師から出された野田代官所文書が残っている。それには「留山であるけれども、塩釜の普請のために、松を伐採させてほしい」とか「丸木舟を造るので、松を伐らせてほしい」などである。例えば天明九年（一七八九）に普代浦の律平が自己所有の丸木船が古船になったので、松元木一本元口五尺廻りを申請している。また同年に普代村の長吉等が塩釜のつくろい入用、下安家川橋材木入用として願書を出している。アカマツは樹脂分を含み耐水性に富むからであろう。（2回シリーズ・次号へ続く）

普代村・まついそ周辺
（写真：大森さん提供）